

## 赤十字原子力災害情報センター (NDRC)

福島第一原発事故発生時、日赤には原子力災害発生時の活動における行動基準・安全基準が整備されておらず、原子力災害に関する十分な情報がなかったことからその活動に制約が生じました。今後は原子力災害の発生に備えた準備が必要であり、そのためには活動実績や経験で得られた情報を対外的に発信していくことが重要と考え、2013年10月に日赤本社内に「赤十字原子力災害情報センター」(以下、情報センター)を設立しました。

情報センターは、主に以下の取り組みを進めることを目的として設立されました。

- 対外的に活用が可能な原子力災害発生時の行動基準(ガイドライン)を整備し、これを各国赤十字社を中心に発信していく
- ガイドラインを検討する際に収集・加工・分析した情報は、各国赤十字社やそれ以外の関係者にも有用なものと考えられるため、積極的に情報発信していく
- 情報発信の目的を実現するための手段として、デジタルアーカイブシステムを構築する
- 関係する国内外の組織と連携して活動を展開する



情報センターのこれまでの主な活動は以下のとおりです。

- 「原子力災害における救護活動ガイドライン」の策定(2015年3月)と定着化への取り組み
- 赤十字原子力災害情報センター デジタルアーカイブの設置(2013年10月)と継続的な情報発信
- 赤十字原子力災害セミナーの開催による情報発信(2016年までに4回開催)
- 国際赤十字・赤新月社連盟との連携による国際貢献
- 国内外の関係機関との連携強化(福島県・福島大学・IAEAなど)

デジタルアーカイブ  
<http://ndrc.jrc.or.jp>

第4回 赤十字原子力災害セミナー  
私たちは、忘れない。  
～福島から学ぶ  
「未来の災害当事者として、  
今私たちができること」～



第20回連盟総会におけるサイドイベント



赤十字原子力災害セミナーの様子